

民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

学生新歓論文

(4面)

何のために勉強する？ 競争教育を考える(6、7面)

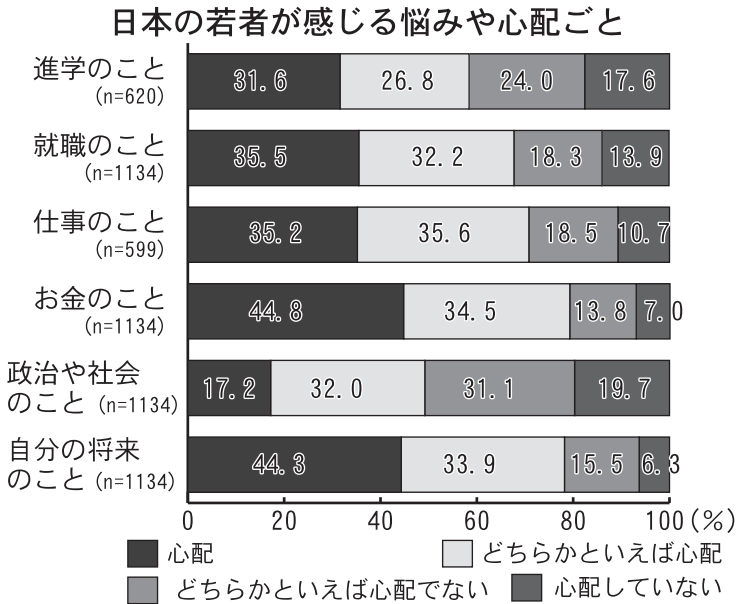
マイナンバーの役割は何か、どこが問題なのか(10、11面)

「生の声」運動にとりくもう

青年の声から新自由主義転換の波起す

第45回全国大会決議で、新自由主義からの転換の波を起こすために「いまの暮らしと政治について。新自由主義を乗り越えるための青年の生の声」運動（「生の声」運動）が提起されました。新自由主義の下で、青年の暮らし向きは困難なものになっています。同時に、新自由主義は青年の中に自己責任論、競争、分断も持ち込み、暮らしや政治のことについて率直に話せない状態が続いてきました。そうした、なかなか見えない青年の実態と想いを丁寧な問いかけでつかむ「生の声」運動にとりくんだ同盟員の経験を紹介しします。

(文中は一部仮名、塩田悠玄記者)



内閣府「子供・若者白書（全体版）」（2018年）を基に作成
 ※調査対象は満13歳から満29歳までの男女、調査時期は2018年11～12月、回答数は1134。項目は一部抜粋

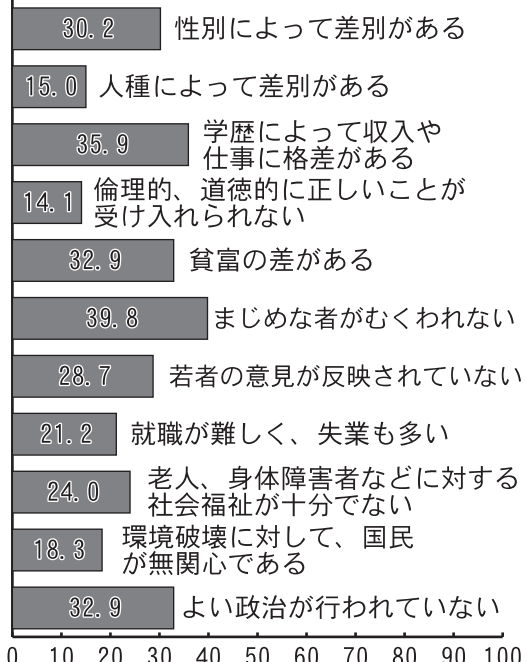
時間かけるから実態つかめる

水野花さん(27)は、友業時に成績優秀者の枠に入らなう一人の友人、笹塚さん(26)は障害者支援施設で働きながらアーティスト活動をしています。生活は低賃金で、貯金も少ない。生活は苦しいけれど、「話したい」と思っています。

自民党はラインを超えている

水野さんが聞き取りを行ったもう一人の友人、笹塚さん(26)は障害者支援施設で働きながらアーティスト活動をしています。生活は低賃金で、貯金も少ない。生活は苦しいけれど、「話したい」と思っています。

日本社会について若者が問題と考えていること(%)



知らなかった友人の貧困

友人の貧困

岩崎奈波さん(24)は、大学の同級生の川口冬美さん(24)に聞き取りを行いました。「いまの暮らし向きについて」の質問では「うん。高かったから交通費もあつたから、お母さんたちのお金も少なかったから、お母さんからお金を貸してもらった」と話した。

岩崎さんは卒業以来、川口さんとは直接は会っていませんが、SNSでつながり、お金の話をきっかけに「生の声」運動の聞き取りに参加しました。

「川口さんが奨学金で大学生活をやりくりしていたのを初めて知った。仕送りとかがやりくりしているのか、逆にお金を出しているのか、と聞いてびっくりした。」と話した。